

# 2015年度大学入試センター試験（本試験）分析詳細

■ベネッセ・駿台共催／データネット実行委員会

英語(リスニング)

## 1. 総評

【2015年度センター試験の特徴】

出題形式・傾向に変更なし。情報処理能力が求められた。難易は昨年よりやや易化

昨年に比べて、数値の聴き取りや計算問題の出題が目立ったが、部分的な聴き取りではなく、全体を把握する総合的聴解力と情報処理能力が求められた点に変更なし。素直な展開の英文が多く、また読み上げられる速度が遅くなったため、難易は昨年よりやや易化。

## 2. 全体概況

【大問数・解答数】	大問数4、解答数は25個で、昨年から変更なし。
【出題形式】	会話文とモノログによる出題で、昨年とほぼ変更なし。
【出題分野】	昨年と同様に日常会話や説明文、表の空所補充や計算問題が出題され、日常的な口語表現が含まれていた。
【問題量】	読まれる英文の語数は昨年並。
【難易】	やや易化。

## 3. 大問構成

大問	出題分野・大問名	配点	難易	備考（使用素材・テーマなど）
第1問	短会話・Q&A選択	12点	やや易	
第2問	短会話・応答文選択	14点	標準	
第3問	会話文・Q&A選択/表完成	12点	標準	A「これからの予定についての会話」、「コーヒーの入れ方についての会話」、「駅の遺失物取扱所での会話」 B「ロンドンパラリンピックの結果」
第4問	モノログ・Q&A選択	12点	標準	A「結婚記念日の贈り物」、「ホテルの紹介アナウンス」、「パラオと日本の国旗の比較」 B「ヘレン・ケラーの初来日と秋田犬」

## 4. 大問別分析

第1問「短会話・Q&A選択」（短い会話を聴いて質問に答える形式）

・読み上げられる会話の発話数は、昨年から変更なく、すべての設問で4であった。読み上げられる語数は昨年並であった。また、読み上げられる速度は平均で約150語/分と昨年並であった。会話の場面や話題は日常生活場面を意識したものが多かった。

・イラスト選択問題は、「Tシャツの絵柄」（問1）、「パソコンとマウスの位置関係」（問6）の2問が出題された。問6は、on the left、in my wayといった鍵となる情報を正しく聴き取ったうえで、瞬時に位置関係を理解する必要があった。

・数値を聴き取って計算する問題は、昨年と変更なく2問出題された。問3は、twice as long asが聴き取れば、計算自体は複雑ではなかった。問5は、on time、be delayed、an hour and a halfや1:30など時間に関する表現の聴き取りが求められた。会議の開始が予定していた時刻より遅れたことを踏まえて、正答を導く必要があった。断片的な数値の情報を聴き取るだけでなく、聴き取った情報を手掛かりに会話全体の流れを的確に把握することが求められた。

・問2の「都市の居住期間」に関する問題は、男性の発言から地域と住んだ期間を聴き取る問題。「福岡に3年住んでいた」という鍵となる情報が会話の冒頭で述べられており、あとに続く他の都市と居住期間の情報と比較すれば解答できる問題であった。

第2問「短会話・応答文選択」（会話のあとに続く応答を選ぶ形式）

・読み上げられる会話の発話数は、昨年から変更なく、すべての設問で3であった。読み上げられる会話の語数は昨年並であったが、読み上げられる速度は平均で約148語/分であり、昨年（約176語/分）と比べると遅くなった。昨年同様、短い会話全体からその場面や状況を把握して、適切かつ自然な応答を判断する力が求められた。

・会話の場面や話題としては、「レストランで料理の注文を確認する場面」（問7）、「見た映画についての会話」（問8）、「空腹具合についての会話」（問9）、「ホッチキスの名前の由来を紹介する場面」（問10）、「グループ分けの場面」（問11）、「売り場案内の場面」（問12）、「再開する美術館についての会話」（問13）が出題された。いずれも実生活場面を意識した内容であり、口語表現を含む自然な会話であった。

・問8は、話者が同じ映画を見ていたことを理解したうえで、正答を選ぶ必要があった。男性の最後の発言「I like anything with Johnny Depp in it.」が正答を選ぶ最大の手がかりだが、固有名詞が含まれており、また平叙文に対する応答を選ぶことを求められたため、受験生にとってやや取り組みにくかったかもしれない。

第3問「会話文・Q&A選択/表完成」（会話を聴いて質問に答える形式/表を完成させる形式）

・読み上げられる会話の発話数は、Aが5～9（昨年は5～8）で、Bが14（昨年は11）であった。読み上げられる会話の語数は、昨年並であった。読み上げられる速度は、Aが平均で約152語/分で昨年（約161語/分）よりやや遅く、Bが平均で約115語/分で昨年（約148語/分）と比べると遅くなった。Aでは、会話の展開をしっかり聴き取り、状況をすばやく大づかみする必要があった。Bでは、何を求められているかを事前に把握し、必要な情報を取捨選択することが求められた。

・Aの会話の場面や話題としては、「これからの予定についての会話」（問14）、「コーヒーの入れ方についての会話」（問15）、「駅の遺失物取扱所での会話」（問16）が出題された。

・Aの問15は、14と40という細かい数値の聴き取りはさほど重要ではなく、会話全体から、コーヒーが苦くなったのは男性がグラム数を間違えていたためだったことを把握する必要があった。正答選択肢では具体的数値は述べられず、音声には出てこない抽象的な表現でまとめられており、misunderstood the directionsという言い換え表現を理解できたかがポイントであった。

・Aの問16は、leftやtrainを聴き取ることができれば比較的容易に会話の状況を把握できるが、正答選択肢のa lost and foundという表現を知っていたかが鍵となった。

・Bは、「ロンドンパラリンピックの結果」についての会話を聴き、各国の参加者数とメダル獲得数の表を完成させる問題であった。参加者数とメダル獲得数の2つに関する数値を正確に聴き分けることが求められ、数値の計算が必要な問題も出題された。国名、参加者数とメダル獲得数の情報が会話中にちりばめられており、twice asなどの表現を聴き取ったうえで簡単な計算が求められるものもあったため、複雑な印象を持ったかもしれない。事前に設問に目を通して、問われているのはメダル獲得数であることを把握しておけば、数値を聴き分けやすかっただろう。

第4問「モノログ・Q&A選択」（英文を聴いて質問に答える形式）

・読み上げられる英文の語数は、Aが3問合計で281語、Bでは206語と昨年並であった。読み上げられる速度は、Aが平均で約133語/分で昨年（約142語/分）と比べるとやや遅く、Bは平均で約139語/分と昨年並であった。Aでは、昨年同様に複数の情報を聴き取ったうえで整理して解答する必要があった。Bでは、設問文に対応する箇所を探し出して正確に聴き取り、正答を選ぶことが求められた。

・Aは、「結婚記念日の贈り物」（問20）、「ホテルの紹介アナウンス」（問21）、「パラオと日本の国旗の比較」（問22）についての問題であった。

・Aの問22は、実際に音声を聴くまで設問のbothが何を指すかがわからなかった。また、選択肢が本文には出てこないやや抽象的な表現でまとめられていたこともあり、受験生はとまどったかもしれない。

・Bは、「ヘレン・ケラーの初来日と秋田犬」についての長めの英文が出題された。選択肢に本文中の表現や語句が一部使われており、例年に比べて取り組みやすかっただろう。

・Bの問23は、正答の根拠となる箇所の英文がやや長い、設問文にもあるfirstを手がかりにlectureが聴き取れば解答できた。

5. 過去5カ年の平均点（大学入試センター公表値）

年度	2014	2013	2012	2011	2010
平均点	33.16	31.45	24.55	25.17	29.39

6. センター試験攻略のポイント

・今年は、形式・配点ともに、変更がなかった。部分的な聴き取りで正答を導くのではなく、複数の情報をもとに判断したり、すべての内容から総合的に判断したりする、いわば聴解力と同時に思考力を要する傾向は、昨年から変更がなかった。また、より実践的なリスニング力が求められている。したがって今後の対策としては、過去問や模擬試験の問題を利用して類題演習を行うことはもちろん、常に「実践的な場でのリスニング」を想定し、英語で聴いて英語の質問に答える練習、英文の書き取り（ディクテーション）・音読などを、日々の学習の中にできるだけ多く取り込んでおくことが必要であろう。

・今年は読み上げられる速度が遅くなり、特に第2問、第3問Bでは数値の情報の聴き取りなどが紛らわしい設問への配慮から遅くなった。平均で、会話文は約115～152語/分、モノログは約133～139語/分であった。今年も例年同様全体を通して語と語の音の連結や脱落などが含まれており、重要な部分の聴き取りが難しかったり、状況・場面が把握しにくかったりすることがあった。日々の学習の中で、ナチュラルスピードで話される英文を聴く練習が今後も引き続き必要である。

・今後は新指導要領の導入に伴い、より実践的な出題形式・内容の検討がなされる可能性もある。形式が急に変わっても対応できるよう、類題対策のみならず、基本表現の聴き分けから状況判断や要点理解に至るまで、本質的なリスニング力養成を目指して、準備を万全にしておきたい。

・実戦的なセンター試験対策を行う時期には、解答に必要な語句を正確に聴き取るだけでなく、印刷されている設問文や選択肢にも事前に目を通し、それらの意味を素早く把握したうえで、どんな状況や場面の英文かを予測しながら聴き取る練習にも力を入れておきたい。また、複数の情報が読まれたり、正答に関わる箇所の英文が選択肢では言い換えられたりすることが多いという傾向を熟知したうえで、メモの取り方なども含めた解答の仕方を練習する必要がある。